



第 60 回日本小児アレルギー学会報告

2023. 11/18-19 京都 (※は平井のコメントです)

(アレルギーをおこす)特定原材料:クルミが加わり、8品目になった。卵・乳・小麦・エビ・カニ・そば・落花生・クルミです。表示が義務付けられています。

交叉耐性:とっても似ているのは、クルミ(walnut)とペカン(pecan:ピーカンナッツ)、カシューナッツとピスタチオなど。(※クルミでアレルギー症状がある人はピーカンナッツを控えた方が良いが、他のナッツまで控えずに良いでしょう。)五平餅や月餅にもクルミが含まれていることがあるので、要注意。

アナフィラキシーとエピペン:エピペンで症状が改善しても、数時間後に再び症状が現れることがある。救急車で病院に搬送が望ましい。

PFAS:花粉食物アレルギー症候群:ハンノキ・シラカバが多い。重症花粉アレルギーになりうるので、注意が必要。

アニサキス:食物関連アナフィラキシーの原因の一つ。アニサキスのアレルギー反応で腹痛がくる。加熱して、死んでいても腹痛はありうる。アニサキスが胃の粘膜を噛んで(障害をおこして)腹痛がくる訳ではない。血液検査で、アニサキス IgE(+)はよくあるが、だからアニサキスアレルギーという訳ではない。怪しい魚の生食は危ない。

現代型栄養失調:ビタミン(特に D)・ミネラル・タンパク不足、亜鉛・鉄・フェリチン低値(※なんとなく具合が悪いというお子さんに採血すると、結構異常値が見つかります。治せる病気は見逃さないという方針でやっています。根拠なく<とりあえず様子を見よう>はダメです。)

舌下免疫療法:鼻炎を治すと、喘息も良くなる。同じ気道だから。気道過敏性が亢進している喘息発作では、舌下免疫療法で改善する。(※ 当院でも行っています。ご相談ください。)

シダキュア(スギ花粉の舌下免疫療法)とミティキュア(ダニの舌下免疫療法):シダキュアは副作用殆どないが、ミティキュアは口の中のかゆみ・イガイガなど副作用がありうる。吐き出し法・水飲み法・抗ヒスタミン剤併用などの工夫がある。(※ご相談ください)

喘息の治療:発作を治す治療(reliever)と長期管理薬(controller)に分けて考える。喘息の程度に応じて治療薬は若干異なるが、基本は reliever は気管支拡張薬の吸入、controller は吸入ステロイドとロイコトリエン受容体拮抗薬(キプレスなど)。(※喘息の診断は呼吸困難を伴う喘鳴を複数回確認することです。発作時の動画でもない限り、気管支喘息と診断することは診療所では困難です。お肌もきれいでアレルギーがなさそうな子供が、喘息と診断されたと言って来院され、??と誤ってしまいます。喘息の疑いはありえます。)

小児のアレルギー性鼻炎:増えてます! 鼻副鼻腔炎との鑑別が大切。後者では、膿性鼻汁と湿性咳嗽で、くしゃみがないのが特徴

長引く咳の子どものうち、半数は鼻副鼻腔炎。喉をよく聞くと雑音が聞かれることがあります。去痰剤やアレルギーを抑える薬を使いますが、反応が悪い時は、ペニシリン系やクラリスロマイシンを少量投与します。

(※当院の治療と同じです。)

幼児のハナかみ:片方ずつ、ゆっくり、口を閉じて楽しく練習します。(※鼻鉄砲も良いです。)

ジベレリン調節タンパク質 GRP:セイヨウイトスギ花粉由来で、最近発見された。モモ・ウメに多く含まれる。

平井こどもクリニック

